

令和六年度入学者選抜学力検査追試験問題

国語

(配点)

1	35点
2	37点
3	28点

(注意事項)

- 1 問題冊子は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題冊子は一ページから二十ページまでである。検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 検査中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気づいた場合は、静かに手を高く挙げて監督者に知らせること。
- 4 解答用紙に氏名と受験番号を記入し、受験番号と一致したマーク部分を塗りつぶすこと。
- 5 解答には、必ず**H Bの黒鉛筆**を使用すること。なお、解答用紙に必要事項が正しく記入されていない場合、または解答用紙に記載してある「マーク部分塗りつぶしの見本」のとおりマーク部分が塗りつぶされていない場合は、解答が無効になることがある。
- 6 一つの解答欄に対して複数のマーク部分を塗りつぶしている場合、または指定された解答欄以外のマーク部分を塗りつぶしている場合は、有効な解答にはならない。
- 7 解答を訂正するときは、きれいに消して、消しくずを残さないこと。

著作権の関係上、非公開

1

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

問1 本文中の、開コン、^①汜ラン、^②ボウ害、^③生ソク、^④のカタカナ部分の漢字表記として適当なものを、それぞれアからエまでの中から一つ選べ。

- | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|-----|
| ①開コン | ア 根 | イ 壑 | ウ 混 | エ 献 | ②汜ラン | ア 乱 | イ 欄 | ウ 濫 | エ 覧 |
| ③ボウ害 | ア 防 | イ 坊 | ウ 傍 | エ 妨 | ④生ソク | ア 促 | イ 即 | ウ 息 | エ 側 |

(注1) 躊躇 〓 あれこれ迷って決心できないこと。

(注2) 肥前国風土記 〓 肥前国は旧国名の一つ。風土記は地方別に風土・産物・文化などを記した奈良時代の書物。

(注3) 『古事記』や『日本書紀』 〓 いずれも奈良時代の歴史書。

(注4) 堰 〓 土を積んで水の流れをせきとめるもの。

(注5) 灌溉 〓 水路をつくって田畑をうるおすこと。

(注6) 説話集 〓 語り伝えられた短い話をまとめたもの。

(注7) 勅撰和歌集 〓 天皇または上皇の命令により作られた公的な和歌集。

(注8) 早魃 〓 長期間雨が降らず、田畑が乾燥すること。

(注9) お伽草子 〓 室町時代から江戸初期にかけて作られた短編物語。

(注10) 能 〓 室町時代につくられた歌舞劇。

(注11) 余儀なく 〓 他に取るべき方法がない。

(注12) 慰撫 〓 なくさめ、いたわること。

(注13) 殺生 〓 生き物を殺すこと。

問2 本文中の、なつ、^a加え、^b名残惜しく、^c絶え、^dの中で、他と活用形が異なるものを一つ選べ。

a なつた b 加えて c 名残惜しく思つて d 絶えず

問3 本文中に、⁽¹⁾二次的自然 とあるが、「二次的自然」に当てはまらないものを、本文中の破線部AからEまでの中から一つ選べ。

A 莊園 B 新田 C 野生の自然 D 擬似自然のような自然環境 E 里山の自然

問4 本文中に、川上には荒ぶる神がいて、⁽²⁾往来の人の半数を殺してしまう、とあるが、この描写について説明したものとして最も適当なものを、次のAからEまでの中から一つ選べ。

A 生活用水である川を汚染から守るため、地元の人たちが、荒ぶる神という恐ろしい存在を示すことでよそ者が近づかないよう威嚇している。
I 川で起きる自然災害を上流にいる神のしわざと考え、荒ぶる神が人に害悪を及ぼすという話によって、自然災害の恐ろしさを表現している。
U 荒ぶる神のいる川の上流に知らずに立ち入ってその怒りに触れてしまった人々の話を、信仰心のあつい人たちが、戒めとして伝承している。
E 川の上流では、熊などの獣により被害に遭う危険性が高まることから、川上には荒ぶる神がいるとして近付くべきではないと警告している。

問5 本文中に、⁽³⁾神を祀る社はかつては莊園のはずれにあったが、莊園の中に建立されるようになる。とあるが、なぜこのようなことが起こったのか。その説明として最も適当なものを、次のAからEまでの中から一つ選べ。

A 治水や灌漑技術の発達により、人間に危害を加えるものとしてではなく豊作をもたらすものとして自然を捉えるようになったから。
I 豊作の神を莊園内に迎え入れ強固な協力関係を築くことで、人間に危害を加える荒ぶる神から農地を守ってもらおうと考えたから。
U 技術の進歩によって自然を管理できるようになり、人間が自らの手で豊作を維持できるようになったことを誇示しようとしたから。
E 堰の設置や灌漑により豊作が増えたことで、自然はもはや警戒し敵対すべき対象ではなく人間の管理下にあると示そうとしたから。

問6 本文中に、⁽⁴⁾優雅で小ぶりの二次的自然 とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のAからEまでの中から一つ選べ。
A 洪水などの災害を含む現実的な自然ではなく、特定の生き物の声や自然の色、香りなど、貴族の想像の中にしか存在しない理想的な自然。
I 人の手が加えられていない天然の自然ではなく、特定の生き物の声や自然の色、香りなど、都の人々の生活のために作られた人工的な自然。
U 鳥、鹿、猪といった、生活に利用される自然ではなく、特定の生き物の声や自然の色、香りなど、都の周辺だけに存在する手つかずの自然。
E 収穫や再利用などによって生活に役立てられる自然ではなく、特定の生き物の声や自然の色、香りなど、美的な対象として扱われる自然。

問7 本文中の、情けないことだよ。は、『宇治拾遺物語』の語り手が、僧と稚児のやり取りに対して自分の思いを述べたものである。ここには語り

手のどういう思いが表れているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 桜の散るのを名残惜しく思うのも、麦の花が散って実が入らないことを案じるのも、すべては移ろいゆく定めだからどうすることもできないと、世の中の無常をはかなく思っている。

イ 風に散る桜を惜しんでではなく、風が実家の麦の花を散らし収穫が減ってしまうことを案じて泣いていたとは、何とも風雅の心とはかけ離れていることよと、稚児の返答にあきれている。

ウ 稚児の故郷がどうなっているかと心配して声をかけてくれた僧の思いやりに気づくことなく、自分の悲しみにひたっているばかりの稚児の様子を、まだまだ未熟であると考えている。

エ 故郷のことを思っただけ涙を流す心優しい稚児を、泣き止ませるところかますます泣かせてしまうとは、何とも余計な発言をしてしまったものと、僧の対応のまずさを苦々しく思っている。

問8 この文章の内容に当てはまるものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 農村の現実生活のなかで作られ出された二次的自然と、都の人々の繊細な心情によって育まれた二次的自然は、時代の流れとともにその違いが薄れていき、両者は徐々に同化し区別がなくなっていく。

イ 宮廷文学に登場する美化された「山里」と農村の現実の生活との間の大きな落差を解消するために、自然に対する里山の態度と貴族社会の態度との違いが、説話の中で繰り返し描かれるようになった。

ウ 和歌において鳥、虫、鹿などの動物の鳴く音に人間の感情を託して表現していたように、日本文学に登場する動物たち、なかでも野生動物は自然界と人間界との親密な調和を象徴するものである。

エ 生きていくために狩猟や害虫駆除や森林伐採などの形で自然を管理し、必要があれば生き物を殺すことがある一方で、自然を崇め、なぐさめようとするところに、日本文化の持つ複雑な側面がある。

オ 農民は稲穂を食い荒らす多くの虫や鳥を厄介者として殺さなくてはならなかったが、虫や鳥を優美なものとする貴族社会の考え方から次第に影響を受け、殺された動物たちを供養するようになった。

著作権の関係上、非公開

2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

(注1) ラングトン・ウィーナー⇨アメリカの政治学者。

(注2) 未来倫理⇨未来世代のためにわれわれが何をすべきか、という問題。

(注3) ゲノム⇨細胞内のDNA(遺伝子)とそこに書き込まれた遺伝情報全体。ゲノム編集はDNAを切断して遺伝子を書き換える技術。

問1 空欄①、②、③に入る語として適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から選べ。ただし、同じ記号は二回使わない。

ア しかし イ むしろ ウ なぜなら エ つまり

問2 本文中の、刷新、網羅の^(a)意味として適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から一つ選べ。

(a) ア 全く新しくすること イ 一部変更すること ウ 不規則にすること エ 規律正しくすること

(b) ア 該当するものだけを選んで検討すること イ 関係するものを残らず集めつくすこと

ウ 基礎的な情報を科学的に検証すること エ 全ての意見を分析してまとめ上げること

問3 本文中に、「遅刻」⁽¹⁾は鉄道というテクノロジーによってもたらされた規範的な概念なのだ。とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 時間通りに運行し、決して遅れることがない鉄道の存在が人間の一日の生活のリズムを変化させ、労働の開始時刻に遅れることは許されない行為であるという認識が社会に広まった。

イ 予定の時間に従って鉄道が運行され、それに間に合うように人々が行動するようになった結果、生活全般においても予定に遅れないよう行動すべきだという認識が社会に広まった。

ウ 毎日のように鉄道を利用して移動するという習慣によって、人々が一日の時間配分を意識するようになり、制限時間を必ず守るよう心掛けることが当然のことになっていった。

エ 鉄道が普及し、社会に浸透していった結果、日の出と日没に合わせた生活リズムは古い習慣であるとの認識が生じて、予定を先取りして行動することが当然の行為になった。

問4 本文中に、社会決定論を正当化する典型的な例として挙げられるのは、鉄砲である。とあるが、2) の に当てはまるものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

〔説明文〕 は、社会が技術のあり方を変えていった例と言える。

ア 戦国時代の日本社会で、鉄砲が多くの武将の目に留まり、すぐに多くの合戦に投入されたことで戦乱の規模が拡大していったこと

イ 織田信長が当時の常識を超えて、それ以前の時代に比べてはるかに多くの鉄砲を戦場に投入し、武田勝頼を完全に打ち破ったこと

ウ 戦国時代の日本が鉄砲を多用したおかげで、当時の日本がヨーロッパ社会よりもはるかに大量の鉄砲を生産するようになったこと

エ 江戸幕府が鉄砲の製造を独占して、鉄砲の用途が限定的なものになったことで、日本では鉄砲自体の性能が進歩しなくなったこと

問5 本文中の A、B、C、D には「技術」「社会」のいずれかの語が入る。正しく当てはまる組み合わせを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア A 〓 社会 B 〓 技術 C 〓 社会 D 〓 技術 イ A 〓 技術 B 〓 社会 C 〓 技術 D 〓 社会

ウ A 〓 技術 B 〓 社会 C 〓 社会 D 〓 技術 エ A 〓 社会 B 〓 技術 C 〓 技術 D 〓 社会

問6 本文中に、それに気づかせないこと⁽³⁾によって、黒人差別はより根深く、解消することが困難なものになっていくのである。とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 橋を利用する人々に差別を行っている意識はないが、実際には多くの人々が様々な場面で差別的な言動をしているため、差別を全てなくすには膨大な時間がかかるから。

イ 橋を利用することによって差別が再生産されていくが、多くの人々が長い時間をかけて合意しそれを維持すべきだと考えているため、現状を変更することが難しいから。

ウ 橋を利用する人々は差別しているという自覚がないまま、無意識に差別の再生産に加担しているため、その状態を当たり前だと思つて差別の存在自体に気づけないから。

エ 橋の利用によって差別を行う側が得られる利便性は大きく、橋を通らないことにほとんどメリットはないため、全ての利用者に橋を通らせないことが非常に困難だから。

問7 本文中に、ある新しい技術が、それが用いられる社会の中で最適化する⁽⁴⁾とあるが、どういふことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア ある技術が開発された後で、それをを用いる社会が新技術に伴う新たなニーズに適した制度を整備していく。

イ ある社会で新技術を導入した後に、それをを用いた製品の特徴が人々に知れ渡り購入する層が絞られていく。

ウ ある社会で必要とされる事柄に応じる形で、新技術がその社会で用いられるのに適した形に変わっていく。

エ ある技術のあり方が、それをを用いる社会との相互関係の中で次第に変質して予想しない効果を生んでいく。

問8 表1の (a)、(b)、(c) に当てはまる表現を、それぞれ次のアからエまでの中から一つ選べ。ただし同じ記号は二回使わない。

ア その技術が社会の望ましくない規範を強化する

イ その技術によって多くの社会が一様になる

ウ その技術が社会によって望ましくない使われ方をされる

エ その技術によって社会が変化する

著作権の関係上、非公開

3

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

著作権の関係上、非公開

(注1) ストイック⇨目標のために厳しく自分を律すること。

(注2) 虫垂炎⇨大腸の一部「虫垂」に生じる炎症。

問1 本文中の、^(a) 陰のある、^(b) 辛気臭くなつて、の意味として最も適当なものを、それぞれ次のアからエまでのの中から一つ選べ。

- | | | | | | | | | |
|-----|---|-------------|---|---------------|---|----------------|---|----------------|
| (a) | ア | 悪意を込めた | イ | きつい印象の | ウ | 大げさな感じの | エ | 本心を隠した |
| (b) | ア | 雰囲気が悪苦しくなつて | イ | ぎすぎすしてけんかになつて | ウ | 二人だけの世界に閉じこもつて | エ | 顔つきや言動が反抗的になつて |

問2 本文中に、⁽¹⁾ 猛獣がいて猛獣使がいなかったら大変じゃん。とあるが、細川さんのこの言葉はどういう意味か。その説明として最も適当なものを、

次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア 良子が修学旅行に行かないと、旅行中に自分の相手をしてくれる人がいなくて張り合いがないということ。

イ 良子が修学旅行に行かないと、旅行中に良子の友人たちの間できつと雰囲気が悪くなるだろうということ。

ウ 良子が修学旅行に行かないと、旅行中にクラスの皆が係の仕事を押し付け合いトラブルが起こるとのこと。

エ 良子が修学旅行に行かないと、旅行中に一緒に食べる約束をしていたお菓子を食べられなくなるということ。

問3 本文中に、大切なものが増えたぶん、わたしは弱くなった。(2)とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア 友だちや母と一緒にいたいという気持ちが大きくなり、様々な活動に参加する機会も増えて、バレエのことだけを考えていた時よりも集中力が落ちたということ。

イ 友だちや母とのかかわりの中でトラブルが多くなり、気を遣うことも出てきて、バレエのことだけを考えていた時よりも辛いと思うことが増えたということ。

ウ 友だちや母への不満が心の中にたまり、気持ちを切り替えられないことが増えて、バレエのことだけを考えていた時よりも精神的に不安定になったということ。

エ 友だちや母への思いが前よりも少し大きくなり、やってみたいと思うことも出てきて、バレエのことだけを考えていた時よりも迷うことが多くなったということ。

問4 本文中に、⁽³⁾でもとあるが、良子がこの先を言わなかったのはなぜか。その理由の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア レッスンのときはいつもバレエ以外のことを口に出すことを固く禁じられているので、ここで修学旅行に行くかどうか迷っているなどと余計なことを言っ、先生に叱られることを恐れていたから。

イ 麻里子先生の言うことに今回だけは従うことはできないと感じているが、先生の言葉には理解できない部分もあり、反論したくてもどう言えばよいかかわらず、説得する自信が持てなかったから。

ウ 麻里子先生の言うようなやり方ではバレエだけに打ち込んできた自分が揺らいでしまうと思ったが、先生の言う通り自分が迷っていることに気づいていて、きっぱりとは否定できなかったから。

エ 口下手な自分を長く指導している麻里子先生を信頼しているので、自分のバレエに対する強い気持ちと今抱えている複雑な思いをわざわざ口に出さなくても、先生ならわかってくれると思ったから。

問5 本文中に、すつと真顔にもどった。とあるが、ここでの麻里子先生の様子の説明として最も適当なものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

ア それまでは良子にわかりやすいように明るく冗談めかして話をしてしたが、自分の思いをここでしっかり伝えたいと、改めて良子に向き合おうとしている様子。

イ それまでは良子を緊張させないようにくだけた口調で話をしてしたが、教室の方針についてここで正しく説明したいと、改めて良子に視線を向ける様子。

ウ それまでは良子に伝わりやすいよう簡単な言葉だけで話をしてしたが、レッスンの意図をここで正確に理解してほしいと、改めて良子に届ける言葉を選ぶ様子。

エ それまでは良子を傷つけないよう少し遠回しに話をしてしたが、自分の期待にここでしっかり応えてほしいと、改めて良子にまじめな言葉をかける様子。

問6 本文中に、もつとあがいてみたら？ ってこと。とあるが、麻里子先生がどんな意味で「あがく」という言葉を使っているかについて生徒たちが話し合っている。本文の内容と会話の流れをふまえ、会話文の **I** に当てはまるものを、次のアからエまでの中から一つ選べ。

生徒1 「あがく」って言うと、苦しい感じがするけど、麻里子先生は「にこっと」「このセリフを言っているね。「あがく」ことは良子に必要なことだと思っっているようだね。

生徒2 でも、良子は混乱しているよ。麻里子先生は「エントリーはちゃんとしておくから」 って言っているけど、オーデイションに出たら修学旅行には行けないわけでしょう？

生徒3 良子は不器用な子なんだね。麻里子先生の考えもわからないし、自分の気持ちもうまく麻里子先生に伝えられないみたいだね。

生徒1 真面目なんじゃないかな。「ほかのことは望んじやいけない」 って決めつけて、今までバレエのことしか考えていなかったようだね。

生徒2 そういえば、麻里子先生はこのセリフの前に「野球はか」の話をして、「良子ちゃんには、そうなってもらいたくないな。」と言っているよ。それがなにか「あがく」と関係しているんじゃないかな？

生徒3 なるほど、麻里子先生が伝えたいのはきつと、 **I** ってことだね。

ア チャンスを逃してもその悔しさが強い気持ちにつながるはずだから、あえてバレエから一度離れてみればいい

イ 普段と違う経験は表現力の向上につながるはずだから、なんとかして修学旅行に行ける方法を考えてみればいい

ウ 修学旅行は途中からでも参加できるのだから、欲張ってオーディションと修学旅行の両方に参加してみればいい

エ すぐにはどちらかを選べないほど大切なものがたくさんあるのはいいことだから、とことん悩んでみればいい

問7 本文中に、ちらと横目で様子を確認して、ペースを落とすとあるが、この一文の説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選べ。

ア あきれつつも細川さんのペースに合わせる良子の様子を描写することで、良子が友人を気にかけていることを示している。

イ さりげなく細川さんの状態を確認する良子の様子を描写することで、細川さんが手術後で本調子でないことを示している。

ウ 細川さんの位置を確認して速度を調整する良子の様子を描写することで、細川さんと距離を置きたい良子の気持ちを示している。

エ 明らかに細川さんよりペースが速い良子の様子を描写することで、良子が自分の運動神経の良さを誇っていることを示している。

